**5 万城目学『偉大なる、しゅららぼん』**

卒業式の帰り道、「四月になったら、はどこから高校に通うんだ？」と同級生のヒロやんにねられ、の親戚が城を持ってるから、下宿して、そこから通う」と正直に答えたら、「①最後までえてるのー、日出」と卒業証書の入った黒筒で肩をぐりぐりかれたのは、まさしく僕の②不徳の　　　ところである。

そもそも、僕は小学生のころから、その場の勢いで適当に話を作ったり、ハッタリをかましたりして、よく友人連中にうそつき呼ばわりされる困った子どもだった。その癖は中学校に入ってからもさして変わらず、今でもときどき、冷やごはんにコーラをかけて食べてみたらうまかった、とかののにＵＦＯを見てしまった、小さな窓が見えた、少し回転していた、とか、亀が甲羅を脱いでをジョギングしているのを追いかけた、追いつけなかった、とか、意味もなくあることないこと、いや、ないことないことばかりする妙な男を三年間、教室で演じ続けた。おかげで、男には妙な人気があった。おもしろいやつと、どちらかと言えば③一目置かれた。しかし、女子のほうはからきしダメだった。「日出？　ないわー」で瞬時に終了した。比較的男女の距離感が近いと思われる学校だったが、中学三年間を通し、バレンタインのチョコをくれたのが母親だけだったのは、実に残念な思い出だ。

僕は兄のように、温厚で忍耐力あるタイプではないし、父のように達観して高校卒業と同時に村役場に就職し、こつこつに働けるタイプでもない。小学校の中学年あたりから、自分という存在に向き合い始め、以後、性格が妙な方向にねじ曲がってしまったのは、今振り返っても、ごくごく自然な成り行きだったと思う。よく、幼少期に心に④強いストレスを抱えると、人格形成に支障をきたすというが、まさに僕はその好例じゃなかろうか。小学四年生のとき、教室でセアカゴケグモを見かけたと適当なことを並べ、小学校を大混乱にⓐ陥れた。ほどなくウソがばれ、母が学校に呼び出されたときも、父は決して僕をらなかった。父は知っていたのである。ほんの数日前、十歳の誕生日を迎え、改めて日出家の真実を知らされることになった僕が強い混乱にⓑ陥っていることを。さらには、「本当のこと」を言えないがため、僕が「本当でないこと」を言うしかない状況にあることを。相手をに巻くよりほか、僕だって自分を煙に巻くを知らなかったのである。

本家に行くことはⓒ得体の知れぬへ足を踏み入れるようで、正直なところ今もあまり気が進まない。だが一方で、この⑤石走行きを僕はずっと心待ちにしていた。地元の高校に進学する友人連中とお別れするのはつらかったが、十歳の誕生日以来、ようやく自分と折り合いをつけられることへの期待がそれに勝った。

行きの電車に揺られ、僕は左の車窓にきれぎれに現れる、には海のようにしか見えない、広大を眺めている。その汀のぬしは、どういうわけか僕に生まれながらにして妙な力を押しつけてきた。そのことについて僕は今でも相手を憎んでいるが、結局のところ絶対に勝てっこないことも知っている。その永遠にわない相手である琵琶湖は、今日もの光を存分に受け、⑥ずいぶん偉そうに青空の下で居座っていた。

語　注

石走＝滋賀県東部、琵琶湖畔に位置する、もと石走藩七万石の城下町。という設定。

　「石走る」は、にかかる。

比叡山＝京都府と滋賀県の境、京都市の北東方にある山。

米原＝琵琶湖東岸にある市。

汀＝水ぎわ。なぎさ。

問1　二重傍線部ⓐ〜ⓒの漢字の読みを平仮名で記せ。　　（2点×3）

ⓐ〔　　　　　〕　ⓑ〔　　　　　〕　ⓒ〔　　　　　〕

問2　傍線部①でヒロやんは「僕」の何が「最後まで冴えてるのー」と言うのか。第二段落の四字以内の言葉で答えよ。（8点）

〔　　　　　〕

問3　傍線部②が、「自分に徳が足りなかった報いである」という意味の慣用句になるように、空欄に入る適当な語を次から選べ。（6点）

ア　返す　　イ　なす　　ウ　課する　　エ　致す　　オ　与える

〔　　　〕

問4　傍線部③で使われている慣用句「一目置く」の意味を次から選べ。（6点）

ア　相手をする。　　　　イ　相手をからかう。

ウ　相手を笑いものにする。　エ　相手を敬遠する。

オ　相手に敬意を表する。

〔　　　〕

問5　傍線部④「強いストレス」は、「僕」の場合、どういうことか。本文中の表現を用いて三十字以内で説明せよ。（9点）

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問6　傍線部⑤「石走行きを僕はずっと心待ちにしていた」とあるが、その理由を説明した本文中の表現を三十五字以内で抜き出せ。（9点）

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕から。

問7　傍線部⑥「ずいぶん偉そうに青空の下で居座っていた」に使われている修辞法（表現技法）を漢字三字で答えよ。（6点）

〔　　　　〕

練習問題〈文学史〉

次の文学作品の作者を、それぞれ後から選べ。

①　雪国 （　　　）

②　舞姫 （　　　）

③　の糸 （　　　）

④　 （　　　）

⑤　走れメロス （　　　）

⑥　の砂 （　　　）

⑦　 （　　　）

⑧　 （　　　）

⑨　金閣寺 （　　　）

⑩　飼育 （　　　）

ア　 イ

ウ　 エ

オ　 カ

キ　 ク

ケ　 コ

【解答】

問1　ⓐおとしい（れた）　ⓑおちい（って）　ⓒえたい

問2　ハッタリ（うそ）

問3　エ

問4　オ

問5　十歳の誕生日に父から改めて日出家の真実を知らされたこと。　（28字）

問6　十歳の誕生日以来、ようやく自分と折り合いをつけられることへの期待（32字）

問7　擬人法

【練習問題解答】

①ウ　②ア　③キ　④ケ　⑤エ　⑥イ　⑦コ　⑧ク　⑨カ　⑩オ

【50字要約例】

高校からは本家に行き、十歳で日出家の真実を知って性格がねじ曲がった自分と折り合いをつけようとする僕。（50字）

【補充設問】

問　傍線部●の「汀のぬし」を、具体的に本文中から抜き出して答えよ。

答　琵琶湖